

受講番号 18078 学校名 安芸中学校 氏名 松本 晶子

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 第1学年 生徒数 25 名
 科目名 第1学年 単位数(授業時数) 3 時間 使用教科書名 NEW HORIZON English Course 1 (東京書籍)

クラスの様子・特徴

1年生は、全体的には反応もよく音読や発表もできる方である。一方、個々を見ると音読が十分できない、これまで学習した文法事項等のルールが十分つかめていない、抜け落ちているなど、今後の学習に困難をきたすであろう生徒が少なからずいる。

問題の確定

英語学習の実質スタートの中学校1年時、音読ができること、音と結びつけて書けることは今後の学習においてもかなり重要である。

予備調査

A 授業の観察

音読は比較的好きな様子であるが、細かい箇所の定着を図る必要がある。書くことが苦手な生徒は、書く練習をさせたがる傾向にある。人間関係により、ペア練習など若干でできにくい所もある。

B 生徒による授業評価

音読の仕方が分かりにくい、書く練習をしてもなかなか単語が覚えられないと困っている生徒がいる。声を出す活動をする、つい関係のないことまで言ってしまう生徒がいる。それに対し、授業は整然と受けたいという思いの生徒が少なくない。

C 学力データ

進度を速くしなかったため、単語テスト定期テストともに狭い範囲ででき、平均点も悪くない。一方、1学期の中間テストから50点を切っている者もいて、夏休みなどに加力補習をする必要があった。

リサーチ・クエスチョン

音読を基本とする本文覚えこみで、入門期の基礎は築けるか。

仮説・実践・検証

仮説1

<正しい文のインプット>
 教科書の本文の音読を重点的にすれば、単語力、文法力を身につけることができるだろう。

実践1

・発音練習…新出単語の発音は教えるのではなく、どう発音かを考えさせ見つけさせた。
 ・音読…(暗記を目標に)教科書の本文を見ながら音読 日本文とカッコ抜きの英文を見ながら音読 日本文のみを見て音読 何も見ずに暗記して音読、と段階的に行った。(夏の補習でも同様の内容を行う)
 ・カナふりプリント配布

検証1

殆どの生徒は音読を行うのは授業内だけである。途中より「カナふり・単語の日本語訳付プリント」を配布し音読時間を確保した。補習には対象者全員が参加できた。音読に力点を置き、実践1の～を行った結果、ほぼ全員がやり切った。本読みテストでは、テスト時点で読み練習が不足している生徒が少なく、事前のチェックや支援が要った。単語・文法力に関しては、教科書の音読だけではカバーしきれないと感じる。

仮説2

<自分でパターン化してインテイク>
 並び換え練習を十分行うことで、英作文の基礎をつくることができるだろう。

実践2

重要構文の並び替え練習…期間をくぎって集中的に、系統だった指導ができなかった。やったことは、1学期の定期テストで低得点の生徒に対し、夏の補習で1学期学習した範囲の練習を行った。他の生徒は、ワークブックを利用して、教科書各パートの構文学習後と定期テスト前にくりかえし行った。

検証2

並び替えの特性として、単語を正確に覚えておらず書けなくても、パターンをつかめばつきっきりで指導の必要もなく、補習の生徒でもあまり難くこなせた。全体指導では、英語の語順を意識させ、音読時に日本語をフレーズごとに入れながら読む、練習問題を解答するときにも文頭から順に訳すなどし、意識づけを図った。定着がよい所には工夫の余地あり、また授業内だけでは限界があり宿題で工夫する必要がある。

仮説3

<アウトプットでより確かなものに>
 楽しいゲームや表現活動をすることによって、意欲を増し、思考することで学んだことをより確かなものにしていくことができるだろう。

実践3

・文法事項を定着させる覚え合い…カードを使ってペアなどで行った。
 ・ALTによる聞き取り問題…聞き取ろうとする意欲が通常より増した。
 ・ゲームや自己表現活動…2学期後半、授業成立が難しくなりあまりできなかった。

検証3

カードを使った覚え合いは、練習問題をより時間的にも多くのことができ、また書く作業を伴わないことは生徒への負担が軽いようである。聞き取り問題では、文法事項を徹底させるための無機質な練習問題ではなく、ALT個人のことや、身の回りのこと(本当のこと)を他教科の学習等とからめながらやることの大切さを感じた。

研究の成果

授業でも音読ができ、本読みテストにも比較的用意をもって嫌がらずに取り組む学年である。リズムや抑揚は後々まで残っている生徒もいるし、音読によるインプットは文法事項や重要語句の定着を助ける。

今後の授業改善の課題

本読みテスト、定期テスト等で生徒の定着をみる時には、事前指導を十分に丁寧にする事で、より生徒の達成感を高め、次へのステップとなる。そのための工夫が必要である。また、授業内で全ての力をつけることは困難であるので、家庭学習の仕方を具体的に提示・助言し、意欲をもってできるようにする工夫がいる。